三洋化成工業株式会社

第 100 回定時株主総会　質疑応答の概要

2024年6月21日

＜高吸水性樹脂（SAP）事業からの撤退に関連して＞

Q1：　SAP 事業における 2023 年度の業績は、売上高が約 300 億円、約 16 億円の営業赤字であったとのことだが、限界利益の金額を伺いたい。

A1：　限界利益は 40～50 億円です。

Q2：　会社全体として 40～50 億円の限界利益を失ったことを自覚できているか？

A2：　SAP 事業を継続するための固定費は無視できません。他事業の成長分野へのリソースシフトを図り、グループ全体としての成長を加速させます。

Q3：　事業の柱の一つから撤退する場合、それに替わる新たな柱があって然るべきである。2025 年度以降、シルクエラスチンの利益貢献に期待が持てるとのことだが心許ない。

A3：　先ずは「サプライチェーン全体の改革」をベースに基盤事業の収益を拡大し、さらに新規事業からの収益を上積みします。シルクエラスチンは来年度の事業化に向けたプロセスにおいて、着実に結果を出しております。

Q4：　同業他社が今なお成長する市場の獲得に向け、植物由来原料への代替や中国における紙おむつの高級志向をつかんだ製品差別化で凌ぎを削り、生産能力を増強する中で、当社は真剣に対応策を検討したのか？

A4：　新規参入が相次ぎ、供給過剰の状況が続く見通しで、原料を持たない三洋化成グループがコスト面で対抗するのは困難になりつつありました。事業再構築や事業売却などのあらゆる可能性を検討し、撤退を決断しました。

Q5：　SAP 事業からの撤退により、2025 年度に「売上高 2,000 億円、営業利益 150 億円」とする目標に変更はないのか？

A5：　達成は非常に難しい状況でありますが、SAP 事業からの撤退を糸口に、基盤事業と新規事業のそれぞれから利益の創出を図ります。

＜業績・株価について＞

Q6： このところ業績が伸び悩んでいたうえに、SAP 事業からの撤退で今後複数年に亘り最大 200 億円の特別損失を計上することになり、2023 年度は最終赤字となった。株主は 2019 年頃から見れば３割程度の含み損を抱えているが、経営責任をどう考えているのか？

A6： 多額の特別損失を計上したことに対し、現在の役員等は当然に責任を負うべきで、社内取締役・執行役員と一部の顧問は、賞与の減額・月額報酬の自主返上を実施しました。また、成長軌道への回帰を成し遂げる責任を自覚しています。

Q7： 東京証券取引所から PBR1 倍割れ銘柄に向け、上場企業として積極的に企業価値を上げる施策を打つようにとの要請があった。当社は向上に向けて改善策をどのように考えているか。或いはこのまま放置するか？

A7： 当社の PBR は 2023 年度末において 0.68 倍であり、向上が課題と認識しています。取締役会でも向上策を議論しており、先ずは収益の回復を実行したいと考えています。

＜新規事業開発について＞

Q8： 「匂いセンサー」を 2023 年度秋に発売されたが、2023 年度実績、２０２４年度予算において会社にもたらす利益はどれほどか。

A8： 2023 年度は、販売開始した 11 月以降の期間において、各種フィーからの利益トータルとして約 10 百万円程度が上がっている。2024 年度の予算においては、約 15～20 百万円程度の利益を見込んでいる。

Q9： 新規事業計画について伺ったが、先の電池分野参入に比べて小粒な印象である。足元減収のなかで配当を続けて頂いているが、当社が自力で成長する自信があるならば、無配・減配にして新規事業の開発に大きく舵を切ってはどうか。自力での新規事業開発や企業価値向上が困難であるなら、企業統合や連携を検討すべきではないか。

A9： シルクエラスチンについて、特に半月板再生材用途は潜在需要も大きく、今後高齢化等により拡大していくとの見方もあります。医師主導治験における良好な結果に対して高い評価が得られており、当社事業の柱とすべく適切に手を打ってまいります。

以　上